

草津白根山 火山ハザードマップ

草津白根山は活火山です。山に向かうときは、最新の情報を確認しましょう。

草津町の立入規制情報を確認できます

↑QRコードで読み取ると、気象庁の登山者向け情報ページを確認できます。青は白根山(湯釜付近)赤は本白根山の情報です。



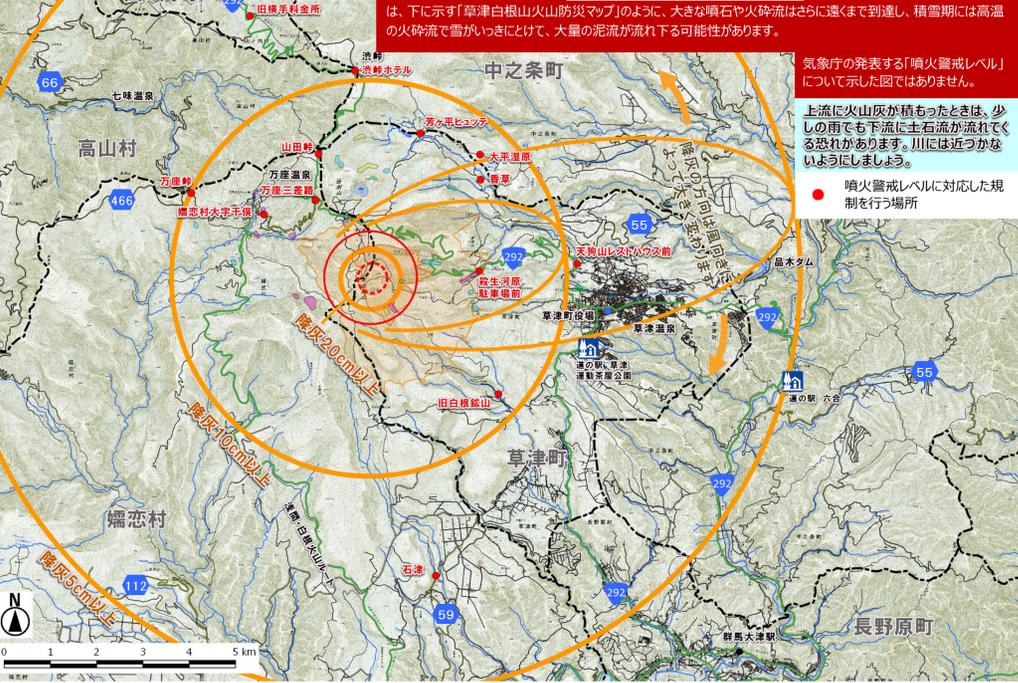
噴火に遭遇したときは



噴火場所の近くにいるときは 逃げる！ かくれる！ 噴火場所を確認し、遠ざかるよう速やかに避難しましょう。

- 1. 火口の周辺を歩いていたら、とつぜん噴火した！**
ただちに逃げましょう！来た道を、噴火場所から遠ざかる方向へ避難しましょう。噴煙が見えたり大きな音が聞こえたらすみやかに近くの避難場に入りましょう。間に合わないときは大きな石や木の根元にすくまって頭を守りましょう。噴火は勢いの激しいときと弱まるを繰り返すことがあります。弱まったときにもっと離れた場所、頑丈な建物へ避難しましょう。
- 2. やまみちの途中で写真を撮っていたら、とつぜん噴火した！**
写真を撮るのをやめて、すみやかに車に戻って山を下りましょう。火山灰が降ってくる、路面がすべりやすくなります。フロントガラスに灰がついて視界が悪くなったときは、タオルや布で拭き落としましょう。火山灰は細かく砕けたガラスや石なので、ワイパーで傷ついたり、水に濡れてセメントのようになることがあります。
- 3. まちにいるら、近くの山が噴火して火山灰が降ってきた！**
頑丈な建物のなかに避難しましょう。数km離れていても風向き次第で、数センチメートルの小さな石が落ちてくることがあります。車のガラスが割れたり建物壊れた事例があります。火山灰を取らないように、灰のついた手で目をこすらないように注意しましょう。

本白根山が噴火した場合



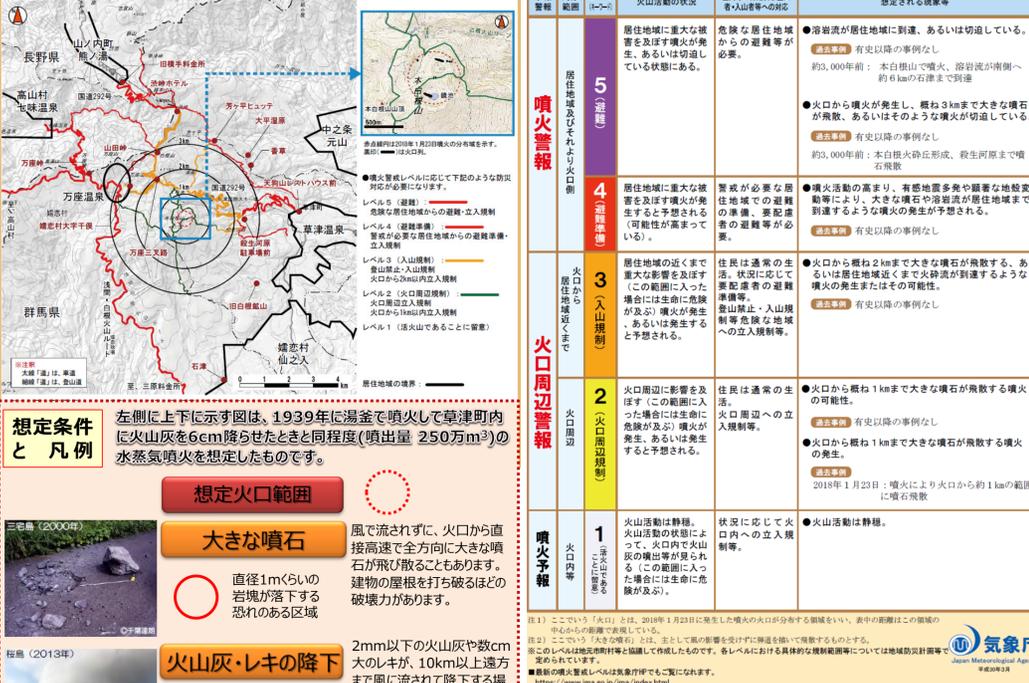
白根山(湯釜付近)が噴火した場合



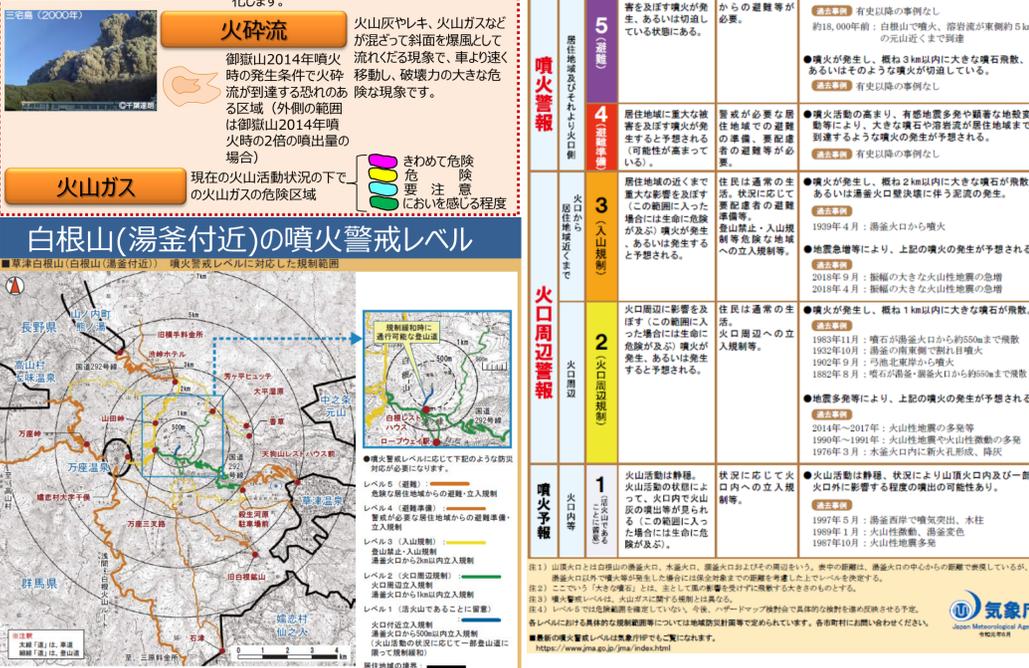
草津白根山のなりたちと近年の噴火

草津白根山は、白根火砕丘、本白根火砕丘など、いくつかの火山の総称です。草津白根山の活動は今から200万年前頃にはじまりました。37万年前ごろまで、大規模な火砕流や厚い溶岩流を噴出した。その後休止期に入り、1万8千年前頃から活動を再開しました。5千年～3千年前には山頂火口から溶岩流が流下して、ほぼ現在の地形ができました。草津温泉のすぐ西に見える山はこのときの殺生溶岩の末端部です。最近の地質調査によれば、本白根山(鏡池北火砕丘)は1500～1200年前にもマグマ噴火していたことが明らかになりました。草津白根山は水蒸気噴火しか起きないイメージですが、最近までマグマ噴火が継続して起きていたようです。

本白根山の噴火警戒レベル



白根山(湯釜付近)の噴火警戒レベル



草津白根山火山防災マップ



本白根山が噴火した場合の図の 火口周辺拡大図

